

和歌山市

加太の磯だより

(ウミウシを中心として)

2019年

(1月10日～12月28日)



2019. 12. 11 城ヶ崎
フレリトゲアメフラシ 4.5 mm



2019. 11. 24 城ヶ崎
ホリミノウミウシ属 s.p. 5 mm

はじめに

和歌山市の加太湾のウミウシを長靴で観察できる範囲で調べ初めて、もう何年になるだろう。特に定年を迎える年間を通して記録し始めたのは2012年なので、今年を終え8年分の記録となった。その間、観察記録を同好会誌「月報」に「加太の磯だより」として発表し続けている。今回、2019年分につき文章・種名・記録写真からの漏れ・誤記載等を再考し、訂正するべきは訂正し、特徴のよく分かる写真への入れ替えを加えてまとめ直すこととした。

毎月の観察については、該当月の2度ある大潮に合わせ、潮の引き具合を調べながら磯に出かけ、それぞれの月の前期・後期に分けて観察種並びに大きさを記録した。昼間の潮の良く引く4・5・6・7・8月頃は、田倉崎の磯・淡島の磯・城ヶ崎の磯のそれぞれに出かけるし、冬場の余り潮の引かない9・10・11・12月は城ヶ崎の磯での観察を年間通して続けた。しかし、観察には天候が作用し、雨・風の日は海面に細波が立ち観察には向かない日もあり、磯に出かけても観察を諦める日、観察日の設定では苦労することが多かった。

記録は、基本的には生態写真を記録とし、小さなウミウシの中には、磯での写真が難しかったときは家に持ち帰り写し直しを行った。

昨年度、和歌山市加太湾産のウミウシ目録を作成し、和歌山県貝の会の機関誌「がんがら」第14号(2019.4月発行)に投稿させて頂き137種を記録したのだが、その後の1年間で新たに目録の中に入れられる種も2種見付かっている。

加太湾の3ヶ所の磯での観察の仕方だが、長靴で濡れない範囲が私の観察の仕方とした。長靴の範囲だと、体を濡らさないので暑い日も寒い日も観察を続けられ、体に対する負担も少なく長く続けられるし、磯海岸で誰でも観察できる範囲であり、この記録がウミウシの観察には参考になると考えている。

本年の特徴としては、長らく加太での観察がなかったフレリトゲアメフラシが城ヶ崎の磯で観察されたことも一つと考えている。本来磯ではなく砂泥地を好む本種だが、12月11日城ヶ崎の下り階段の下のタイドプールで観察された。おそらく前日の満潮時荒波にもまれて磯に入り込んできたものであろう。

また、11月24日城ヶ崎の磯の中程にあるタイドプールの転石の裏からマツカサウミウシと共に観察されたホリミノウミウシ属sp2は、日本でも観察例が2例目だとさく。特徴としては、体は半透明・全体に濃紫色の細点があり、触角は棒状で中央部が赤く染まりその先は白・鞘はない。口触手は体色と同様の採点が入り長い。背側突起は凸凹のある紡錘形で褐色、付け根が黒染し先端は白く尖る。体長5mm。

もう1種、7mmイズミミドリガイが12月28日に観察された。珍しい種ではないのだが、なかなか見つけにくい種である。比較的高い位置の緑藻の生えた砂混じり・細かく碎けた貝殻混じりの浅いタイドプールでやっと観察された。小さく・地味な体色等から探すには、そこにいるを信じ、緑藻の根元に側足の縁が白い独特の姿を見付けるまで、じっと観察し続けるしかない。今回同じタイドプールからは3~4mmのアリモウミウシが観察されていたので探す助けにもなるかと思う。

各月の見方だが、左ページは観察した前期又は後期のどちらかの記録を載せ、右側はその月の全ての種名と、載せられる範囲で写真を載せた。種名の後の()内は、観察日である。

表紙写真説明
ホリミノウミウシ属sp2 5mm
2019.11.24 城ヶ崎の磯

2020.1月

増田泰久

加太の磯だより 2019. 1月

2019. 1. 23 城ヶ崎 干潮 13:53 潮位 66 cm

行けるかと思っていたタイドプールまで、深さのため長靴では行けなかった。やむを得ず周辺での観察となる。

18 mm ブドウガイ、18 mm ミドリアマモウミウシ、200 mm アメフラシ、40 m
m アマクサアメフラシ、50 mm ミドリアアメフラシ(卵塊)、4 mm オカダウミウシ(卵塊)、
41 mm クロシタナシウミウシ(大きさまちまち)、25 mm イロミノウミウシ、7 mm ミ
ノウミウシ亞目 s p 4



当日の磯



ミドリアマモウミウシ



ミノウミウシ亞目 s p 4

2019. 1. 24 城ヶ崎 干潮 14:37 潮位 64 cm

今日の潮は昨日と違い良く引いた。タイドプールに何とか長靴ではいるようであった。
その分、ヒドロ虫の中を観察できるようになった。

ブドウガイ、アメフラシ、アマクサアメフラシ、オカダウミウシ、18・12 mm コネ
コウミウシ(卵塊)、12 mm サガミコネコウミウシ、8 mm ヒイラギウミウシ(卵塊)、
9・6 mm イナバミノウミウシ、6 mm ホリミノウミウシ、11 mm ジョオウミノウミウ
シ、21 mm アカエラミノウミウシ



当日の磯



イナバミノウミウシ



ホリミノウミウシ

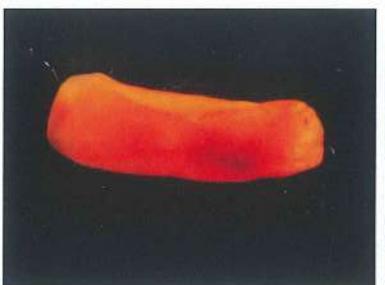
2019. 1. 25 城ヶ崎 干潮 15:25 潮位 63 cm

気温は10°C、風は弱く暖かさが感じられた。潮の引きは未だ駄目である。

ブドウガイ、オカダウミウシ、190 mm アメフラシ、35 mm アマクサアメフラシ、
60 mm ミドリアアメフラシ(卵塊)、18 mm コネコウミウシ(卵塊)、27・31 mm エ
ダウミウシ、15 mm クロシタナシウミウシ、9 mm ツノバネミノウミウシ(卵が透けて
見える)

2019. 1月 加太磯観察より

ブドウガイ、アカキセワタ、アメフラシ、アマクサアメフラシ、ミドリアアメフラシ、クロヘリアア
メフラシ、クロミドリガイ、ミドリアマモウミウシ、アリモウミウシ、サガミコネコウミウシ、コネコ
ウミウシ、アカボシウミウシ、オカダウミウシ、エダウミウシ、ヤマトウミウシ、アオウミウシ、ク
ロシタナシウミウシ、ヒイラギウミウシ、ホリミノウミウシ、イナバミノウミウシ、ジョオウミノウ
ミウシ、ツノバネミノウミウシ、フタスジミノウミウシ、イズミミノウミウシ、イロミノウミウシ、
アカエラミノウミウシ、ミノウミウシ亞目 s p 4 計27種 () 内は観察日



アカキセワタ(10)



ミドリアアメフラシ(10)



クロヘリアアメフラシ(24)



サガミコネコウミウシ(24)



コネコウミウシ(24)



エダウミウシ(10)



アオウミウシ(11)



ヒイラギウミウシ(24)



ジョオウミノウミウシ(24)



フタスジミノウミウシ(26)



イズミミノウミウシ(11)



アカエラミノウミウシ(24)

加太の磯だより 2019. 2月

2019. 2. 21 城ヶ崎磯観察 干潮13:34 潮位41cm

磯には釣り客だけでなく、ヒジキ刈りの人達が入っている。潮位は今年に入って41cmとよく引く時季に入ってきたからであろう。ガンガラ採集とカサガイ（ヨメガカサ）の採集に来ていることも特筆かと思う。

150mmアメフラシ、80mmアマクサアメフラシ、70mmクロヘリアメフラシ、70mmミドリアメフラシ（卵塊）、18mmネコジタウミウシ、24mmコネコウミウシ、22mmキヌハダウミウシ、18mmクロシタナシウミウシ、9mmアカエラミノウミウシ、20mmイズミノウミウシ



当時の磯



クロヘリアメフラシ



コネコウミウシ

2019. 2. 22 城ヶ崎磯観察 干潮14:15 潮位36cm

今日もヒジキ刈りの人達が多い。昨日は大変寒かったが、今日は大分和らいだ。潮の引きは観察には丁度良い。

19mmブドウガイ（これは大きい）150mmアメフラシ、75mmアマクサアメフラシ、15mmキヌハダウミウシ、5mmオカダウミウシ（卵塊多し）、42mmヤマトウミウシ、35mmツヅレウミウシ、17mmクロシタナシウミウシ、3mmヒイラギウミウシ（卵塊）、11mジョオウミノウミウシ、3mmフジエラミノウミウシ



当時の磯（最干潮2時間前）



キヌハダウミウシ



ツヅレウミウシ



ヒイラギウミウシ



ジョオウミノウミウシ



フジエラミノウミウシ

2019. 2月 加太磯観察より

ブドウガイ、アリモウミウシ、アメフラシ、アマクサアメフラシ、ミドリアメフラシ、クロヘリアメフラシ、ネコジタウミウシ、コネコウミウシ、キヌハダウミウシ、オカダウミウシ、エダウミウシ、ヤマトウミウシ、ツヅレウミウシ、ミヤコウミウシ、クロシタナシウミウシ、ヒイラギウミウシ、ホリミノウミウシ、イナバミノウミウシ、ジョオウミノウミウシ、ツノバネミノウミウシ、フジエラミノウミウシ、コマユミノウミウシ、アカエラミノウミウ、ミノウミウシ亜目4

計24種 () 内は観察日



ブドウガイ(7)



アリモウミウシ(7)



ネコジタウミウシ(21)



オカダウミウシ(22)



エダウミウシ(7)



ヤマトウミウシ(22)



ミヤコウミウシ(9)



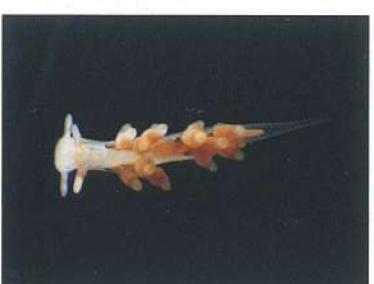
クロシタナシウミウシ(9)



ホリミノウミウシ(8)



イナバミノウミウシ(9)



コマユミノウミウシ(8)



ミノウミウシ亜目 s p 4 (9)

加太の磯だより 2019. 3月

2019. 3. 8 城ヶ崎 干潮 13:25 潮位 41 cm

気候も大分良くなり、今日は穏やかな観察日和であった。海遊館の田中さんともう一人との3名の観察である。磯はヒジキ・ワカメの採集者が来ていたが、ワカメは少ないようである。

13 mm ブドウガイ・250 mm アメフラシ・60 mm アマクサアメフラシ・2 mm アリモウミウシ・18 mm ネコジタウミウシ・15 mm コネコウミウシ・12 mm サガミコネコウミウシ・9 mm アカボシウミウシ・25 mm キヌハダウミウシ・4 mm オカダウミウシ・35 mm クロシタナシウミウシ・7 mm イナバミノウミウシ・5 mm ジョオウミノウミウシ・14 mm アカエラミノウミウシ・2 mm コマユミノウミウシ (4 mm コネコウミウシ)



当日の磯



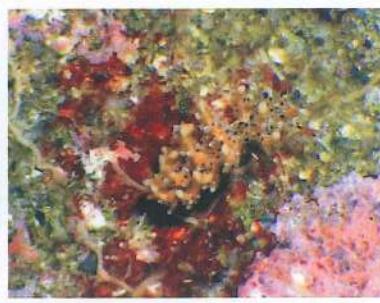
ネコジタウミウシ



サガミコネコウミウシ



アカボシウミウシ



ジョオウミノウミウシ



イナバミノウミウシ

2019. 3. 9 城ヶ崎 干潮 13:56 潮位 36 cm

今日も天気が良く気温が15℃と観察には最適であった。しかし、磯の東側を中心として観察したが、観察内容は昨日よりおとる。昨年はサガミミノウミウシがよく観察された場所である。

4 mm アリモウミウシ・150 mm アメフラシ・60 mm アマクサアメフラシ・80 mm ミドリアメフラシと卵塊・8・10 mm コネコウミウシ・16 mm クロシタナシウミウシ・9・6 mm フジエラミノウミウシ・18 mm アカエラミノウミウシ

アリモウミウシはタイドプールの中では約2 mm、ゆったりと体を伸ばせば4 mmであった。



当日の磯



アリモウミウシ



フジエラミノウミウシ

2019. 3月 加太磯観察より

ブドウガイ、クロミドリガイ、アメフラシ、アマクサアメフラシ、ミドリアメフラシ、クロヘリアメフラシ、ウミクロウ、アリモウミウシ、ネコジタウミウシ、サガミコネコウミウシ、コネコウミウシ、アカボシウミウシ、キヌハダウミウシ、オカダウミウシ、ヒカリウミウシ、アオウミウシ、シロウミウシ、クロシタナシウミウシ、イナバミノウミウシ、ジョオウミノウミウシ、ユビワミノウミウシ、ミノウミウシ、フジエラミノウミウシ、アカエラミノウミウシ、イズミミノウミウシ、コマユミノウミウシ

計26種 () 内は観察日



クロミドリガイ (/23)



クロヘリアメフラシ (/22)



ウミクロウ (/23)



コネコウミウシ (/23)



キヌハダウミウシ (/23)



ヒカリウミウシ (/23)



シロウミウシ (/23)



クロシタナシウミウシ (/20)



ユビワミノウミウシ (/23)



ミノウミウシ (/22)



イズミミノウミウシ (/22)



コマユミノウミウシ (/20)

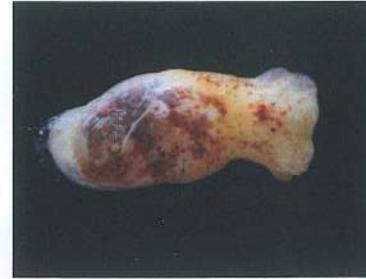
加太の磯だより 2019. 4月

2019. 4. 7 淡島 干潮13:31 潮位19cm

大阪湾ウミウシ観察会主催で参加者20余名の観察会である。淡島の磯は昨年9月の台風により大変な被害を被った。それでなくともこの海岸は田倉崎・城ヶ崎の海岸に挟まれ、今まででの観察会でも観察種が少ない磯であつムラサキミノウミウシ・リュウモンイロウミウシ等、加太の磯でもここでしか観察されていない種もあったので、今日の観察には大変興味があった。18m mブドウガイ(8・15mm白いブドウガイ 和歌山県では南の方(田辺市・串本町)に多い、色パターン)、180mmアメフラシ、50mmアマクサアメフラシ、25mmウミフクロウ、4mmオカダウミウシ、35mmキヌハダウミウシ、40mmヤマトウミウシ、30mmクロシタナシウミウシ、25mmミヤコウミウシ、13mmミノウミウシ、12mmイズミミノウミウシ、30mmヤマトミノウミウシ
12種であった。



当日の磯



軟体の白いブドウガイ



ミヤコウミウシ

2019. 4. 8 城ヶ崎 干潮14:05 潮位17cm
天候もよく潮も良く引いていたが、タイドプールや磯の転石は捲られ、ウミウシの姿が少ない。磯東側の観察の折り、フジエラミノウミウシは転石を捲ったときに浮き上がってきた(小型種では石を捲るときにできる水流によりはがされ浮き上がる個体も稀はある)。4月のこの時期では、城ヶ崎の磯の東側では、サガミミノウミウシ、アオウミウシ、シロウミウシ、フタスジミノウミウシ等が観察されることが多いので、この場所からの観察を開始する。

また、潮間帯上部の浅いタイドプールから見付かっているアリモウミウシは、加太の磯では小さな個体が多く、黒い海藻の小さな欠片の様な個体が多く、黒い欠片をじっと見つめ動きがあるか、動かないかを暫く観察して見付けている。

コネコウミウシ・ウミフクロウの卵塊が観察された。

18mmブドウガイ、2・4mmアリモウミウシ、250mmアメフラシ、150mmアマクサアメフラシ、60mmクロヘリアメフラシ、17mmアカボシウミウシ、3mmオカダウミウシ、35mmクロシタナシウミウシ、5mmミノウミウシ、12mmアカエラミノウミウシ、6mmフジエラミノウミウシ
11種



当日の磯



ブドウガイ



アリモウミウシ

2019. 4月 加太磯観察より

ブドウガイ、アリモウミウシ、アカキセワタ、アズキウミウシ、アメフラシ、アマクサアメフラシ、クロヘリアメフラシ、ウミフクロウ、アカボシウミウシ、キヌハダウミウシ、ネコジタウミウシ、コネコウミウシ、ヒロウミウシ、オカダウミウシ、ヤマトウミウシ、シロウミウシ、クロシタナシウミウシ、ミヤコウミウシ、オトメウミウシ、ミノウミウシ、イズミミノウミウシ、アカエラミノウミウシ、ヤマトミノウミウシ、フジエラミノウミウシ、
計 23種 () 内は観察日



アカキセワタ(122)



アズキウミウシ(122)



アカボシウミウシ(8)



キヌハダウミウシ(17)



ヒロウミウシ(122)



シロウミウシ(21)



クロシタナシウミウシ(8)



オトメウミウシ(122)



ミノウミウシ(7)



ヤマトミノウミウシ(17)



アカエラミノウミウシ(18)



フジエラミノウミウシ(8)

加太の磯だより 2019・5月

2019.5.17 城ヶ崎 干潮11:14 潮位30cm

磯に出る予定はなかったが、伊奈胃腸科の検査結果が早く済み、時間の余裕が出来たため前日の16日に採集した上浦海岸のウミウシの写真を撮り直す。城ヶ崎での観察は気になる場所だけとし、明日が本番の観察にする。午後からは、岸和田に串本での採集品を届けることとした。

城ヶ崎での観察種は18mmブドウガイ、170mmアメフラシ、60mmクロヘリアメフラシと卵塊、40mmヤマトウミウシ4個体の塊、25mmマダラウミウシ



ブドウガイ



ヤマトウミウシ



マダラウミウシ

2019.5.18 城ヶ崎 干潮11:52 潮位17cm

空は曇天で今にも雨が降ってきそうである。潮は良く引いているが、波が高い。磯はやや緑がかかるものの、まだまだ波打ち際はヒジキが多く良く滑る。ウミウシの仲間はなかなか見付からない。観察は悪戦苦闘である。辛うじて浅い小さなタイドプールの中に2mmのアリモウミウシを見付け、手の上に載せた状態で写真に撮る。転石の横から5mmのヤマトウミウシを見付け、磯左手先のタイドプールの海藻（マクサ）の上から45mmのアオウミウシ、続いて転石の裏から50mmアオウミウシを見付ける。転石の裏のイタボヤをじっと眺めているとき、その中に7・5mmのサガミコネコウミウシを見付ける。その他には、180mmアメフラシ、19mmブドウガイ、3mmオカダウミウシを見付けたのみである。



当日の磯



ブドウガイ



アリモウミウシ



オカダウミウシ



サガミコネコウミウシ



アオウミウシ

2019.5月 加太磯観察より

ブドウガイ、アカキセワタ、アリモウミウシ、アズキウミウシ、アメフラシ、アマクサ、アメフラシ、クロヘリアメフラシ、サガミコネコウミウシ、コネコウミウシ、アカボシウミウシ、キヌハダウミウシ、ヒメキヌハダウミウシ、オカダウミウシ、ヤマトウミウシ、シロウミウシ、アオウミウシ、クロシタナシウミウシ、マダラウミウシ、ミノウミウシ、サガミミノウミウシ、ヨツマタウミウシ、ヤマトミノウミウシ

計23種

() 内は観察日



アカキセワタ(8)



アズキウミウシ(4)



アメフラシ(8)



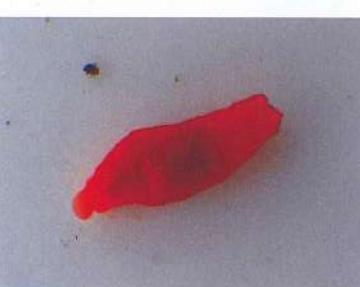
クロヘリアメフラシ(17)



コネコウミウシ(4)



キヌハダウミウシ(8)



ヒメキヌハダウミウシ(4)



シロウミウシ(4)



ヨツマタウミウシ(6)



ミノウミウシ(8)



サガミミノウミウシ(4)



ヤマトミノウミウシ(6)

加太の磯だより 2019. 6月

2019. 6. 17 田倉崎 干潮12:17 潮位16cm

昨日は県生物同好会加太磯観察会であったが、ウミウシについては何も見付けられなかった。防潮堤工事のため泥が磯にも影響しているようである。

本日の観察では田倉崎の観察も潮の引きが悪く、この潮位だと白帽近くの転石帶には長靴での観察は無理であった。磯には砂が流れ込み、海藻はほとんど着いていない。転石の裏側には動物が着いているものの、ウミウシの姿はなく観察も困難を極め、やっと2種3個体の観察であった。いいニュースは、田倉崎の防潮堤の下で観察できていたハマシイノミガイは、台風で荒らされた後今回の観察で幼貝が見付かった。

ウミウシでは、15mmジョオウミノウミウシ、13・18mmアカエラミノウミウシ



当時の磯



生き残っていたハマシイノミガイ ジョオウミノウミウシ



2019. 6. 20 城ヶ崎 干潮14:10 潮位24cm

大変暑くなってきた。磯では岩に着いていた海藻、低潮線の海水のある所まで押し返され、干上がった岩には海藻の姿は見あたらない。しかし、珪藻・藻などが付着し良く滑る。

今日の観察は、15mmブドウガイ、110mmアメフラシと卵塊、150mmアマクサアメフラシと卵塊、2mmオカダウミウシ、7mmコネコウミウシ、14mmサガミコネコウミウシ、21mmアカエラミノウミウシであった。オカダウミウシは極端に少なく、少ないが緑色のアメフラシの卵塊も見られた。この時期はウミウシを見付けるのも種数・個体数も少なく大変である。



当時の磯



サガミコネコウミウシ



アカエラミノウミウシ

2019. 6. 22 城ヶ崎 干潮15:22 潮位45cm

この時期の磯としては潮位が良くないが、今日は大阪湾ウミウシ観察会のメンバーと一般参加者合計約20名の目がある。やはり眼の数は大切なものである。

13mmブドウガイ、110mmアメフラシ、21mmウミフクロウ、9mmネコジタウミウシ、8mmコネコウミウシ、2mmオカダウミウシ、45mmアオウミウシ、60mmヤマトウミウシ、45mmマダラウミウシ、8mmヤツミノウミウシ、15mmアカエラミノウミウシ

2019. 6月 加太磯観察より

アカキセワタ、ブドウガイ、アメフラシ、アマクサアメフラシ、ウミフクロウ、オカダウミウシ、ネコジタウミウシ、コネコウミウシ、サガミコネコウミウシ、アカボシウミウシ、キヌハダモドキ、ヤマトウミウシ、アオウミウシ、マダラウミウシ、オトメウミウシ、ジョオウミノウミウシ、ヤツミノウミウシ、ハクセンミノウミウシ、アカエラミノウミウシ

計 19種 () 内は観察日



アカキセワタ(3)



ブドウガイ(3)



ウミフクロウ(22)



ネコジタウミウシ(5)



コネコウミウシ(3)



サガミコネコウミウシ(5)



アカボシウミウシ(5)



キヌハダモドキ(5)



アオウミウシ(3)



マダラウミウシ(22)



オトメウミウシ(5)



ヤツミノウミウシ(22)

加太の磯だより 2019. 7月

2019. 7. 20 城ヶ崎 干潮14:21 潮位37cm

昨日19日は1学期の終業式、今日から子ども達は夏休みに入ります。梅雨は未だ開けていないが曇天であるが、一部薄日が差すような一日であり暑さも和らいだ観察日となった。潮の引きは今ひとつの感じだが、今日は大阪湾ウミウシ観察会のメンバーとの観察である。人の眼の数は一人の観察とは違い、約15名との観察会であり心強い。

6mmブドウガイ、17mmウミクロウ、8・5mmコネコウミウシ、4・2mmオカダウミウシ、12mmツメウミウシ、35・30・20mmヒメリベ、15mmヤツミノウミウシ、20mmセトミノウミウシ、12mmツノバネミノウミウシ



当日の磯



ヤツミノウミウシ



ツノバネミノウミウシ

2019. 7. 31 城ヶ崎 干潮11:46 潮位11cm

気温32度、暑い、こんな日に観察に来るのはなかった。観察後車の元に来るまでは大変長く感じた。着ていたシャツは汗が絞れる。年を感じさせる観察であった。

潮は良く引いていた。炎天の下の磯に立ち、転石を捲れどもホントになにも観察できない。ブドウガイがいつもいる小さなタイドプールも、見付からず。小さなオカダウミウシも2mmほどの1個体が見えただけ。コネコウミウシは7mmの個体を見付け写真を撮ると、その横に小さな2・3mmのコネコウミウシが写っていた。メリベウミウシの仲間は、一つの転石の裏から見付かったものである。ホソトゲガヤの仲間の中で、小さく動くウミウシを見付けたがその場では同定できず、持ち帰り家で写真を撮り直し、触角から体の後ろに続く二つの紋様からミノウミウシと同定した。

観察は、2mmオカダウミウシ、7・3mmコネコウミウシ、18・70mmヒメリベ、40mmムカデメリベ、4mmミノウミウシ



当日の磯



コネコウミウシ



ミノウミウシ

2019. 7月 加太磯観察より

ブドウガイ、アメフラシ、ウミクロウ、ネコジタウミウシ、コネコウミウシ、キンセンウミウシ、オカダウミウシ、ヤマトウミウシ、シロウミウシ、アオウミウシ、マダラウミウシ、ツメウミウシ、ヒメリベ、ムカデメリベ、オトメウミウシ、セスジミノウミウシ、ミノウミウシ、ヤツミノウミウシ、アカエラミノウミウシ、セトミノウミウシ、ツノバネミノウミウシ、フジエラミノウミウシ

計22種

() 内は観察日



ブドウガイ(3)



ネコジタウミウシ(4)



オカダウミウシ(3)



キンセンウミウシ(4)



マダラウミウシ(4)



ヒメリベ(3)



ムカデメリベ(31)



オトメウミウシ(4)



セスジミノウミウシ(4)



セトミノウミウシ(4)



アカエラミノウミウシ(20)



フジエラミノウミウシ(3)

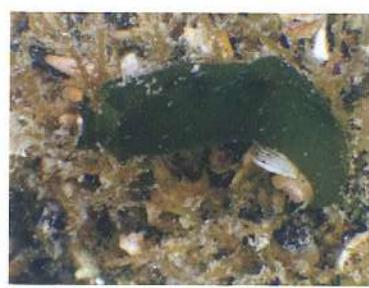
加太の磯だより 2019. 8月

2019. 8. 2 田倉崎 干潮13:13 潮位0cm

今日も暑い。和歌山市35.6℃の観測値である。今日の暑さからさすが誰も来ていなかつたと思っていたが、田倉崎の磯には、8名が来ている。白棒近くで潜っているので、サザエ採りが目当てかなと思ったが、それに加えて魚突きを楽しんでいたようである。しかし、暑い。ウミウシをなかなか見付けることが出来なかった。ウミウシも暑すぎ深みへ行ってしまったか観察種は極めて少ない。

ここに来てやっと白棒近くでやや成長したミルを見付けることが出来、そこからヒラミルミドリガイを観察することが出来た。ミルの根元近くの分枝際に白色半透明な螺旋の卵塊も、見られる。

19mmを最大値として小さな物で6mmヒラミルミドリガイ、12mmイソウミウシ、8mmアカエラミノウミウシの3種



ヒラミルミドリガイ



イソウミウシ



アカエラミノウミウシ

2019. 8. 18 城ヶ崎 干潮13:52 潮位45cm

大阪湾ウミウシ観察会の皆さん（15名）と共に観察に出た。さすがウミウシの好きな方々で、小さなウミウシまでしっかりと見付けてくる。今回ヤツデヒトデヤドリニナ（ダルマクリムシ）を採集。

4mmブドウガイ、13mmヒラミルミドリガイ、3mmオカダウミウシ、35mmアオウミウシ、14mmシロウミウシ、3mmイソウミウシ、4mmシロスジオキウミウシ、4mmイナバミノウミウシ、7mmツノバネミノウミウシ、2mmコマユミノウミウシ、18mmヤツミノウミウシ、17mmアカエラミノウミウシ、15mmミノウミウシ



当日の磯



シロスジオキウミウシ



ダルマクリムシ（大雌 小雄）
ヤツデヒトデに付く寄生貝

2019. 8月 加太磯観察より

ブドウガイ、ヒラミルミドリガイ、コネコウミウシ、オカダウミウシ、アオウミウシ、シロウミウシ、イソウミウシ、ミヤコウミウシ、シロスジオキウミウシ、ヒメメリベ、イナバミノウミウシ、ミノウミウシ、ヤツミノウミウシ、アカエラミノウミウシ、コマユミノウミウシ、ツノバネミノウミウシ
計16種 () 内は観察日



ブドウガイ(/18)



コネコウミウシ(/29)



オカダウミウシ(/18)



アオウミウシ(/18)



シロウミウシ(/18)



ミヤコウミウシ(/29)



ヒメメリベ(/29)



イナバミノウミウシ(/18)



ヤツミノウミウシ(/18)



ミノウミウシ(/18)



コマユミノウミウシ(/18)



ツノバネミノウミウシ

加太の磯だより 2019. 9月

2019. 9. 13 城ヶ崎 干潮12:00 潮位46cm

9月前半の観察は、悪天候で出来なかった。従って9月最初の観察はここから始まる。

朝から小雨模様だったが、昼前には雨もやみ磯に出た。磯は雨に濡れ大変滑りやすくなっていた。慎重に歩を進めながら、中央のタイドプールを中心に観察を進めた。今回の記録はそこからである。

この時期はツノバネミノウミウシ・ヤツミノウミウシが大変多い。両種共に産卵期である。尚、ハクセンミノウミウシは本年初めての観察であり、いつもより小さい。

6・5mmアカボシウミウシ3個体、6mmヒメキヌハダウミウシ、3mmオカダウミウシ、24mmキイロクシエラウミウシ、5mmハクセンミノウミウシ2個体、10mmゴマフミノウミウシ、12~6mmヤツミノウミウシ、12~5mmツノバネミノウミウシ、6mmミノウミウシ亜目 s p



当日の磯



キイロクシエラウミウシ



ハクセンミノウミウシ

2019. 9. 16 城ヶ崎 干潮13:21 潮位56cm

気温間は残暑が32℃と厳しいが、朝夕持ちのいい季節になってきた。今日は大阪湾ウミウシ観察会の皆さん60名余との観察である。多くの皆さん、その気になってウミウシを探すと大変大きな力となる。それを検証するような観察会であった。

19mmクロスジアメフラシ、8mmアカボシウミウシ、ヒメキヌハダウミウシ、2mmオカダウミウシ、35mmミナミヒヨウモンウミウシ、32mmツヅレウミウシ、20mmクロシタナシウミウシ、40mmミヤコウミウシ、7mmミノウミウシ、30mmホソエラワグシウミウシ、15mmサラームミノウミウシ、55mmイズミミノウミウシ、11mmハクセンミノウミウシ、8mmゴマフミノウミウシ、10mmヤツミノウミウシ、12mmツノバネミノウミウシ



当日の磯



クロスジアメフラシ



サラームミノウミウシ

2019. 9月 加太磯観察より

クロミドリガイ、ヒラミルミドリガイ、クロスジアメフラシ、コネコウミウシ、アカボシウミウシ、ヒメキヌハダウミウシ、オカダウミウシ、ミナミヒヨウモンウミウシ、キイロクシエラウミウシ、ツヅレウミウシ、クロシタナシウミウシ、ミヤコウミウシ、ツメウミウシ、ジョオウミノウミウシ、ミノウミウシ、イズミミノウミウシ、サラームミノウミウシ、ハクセンミノウミウシ、ゴマフミノウミウシ、ツノバネミノウミウシ、ホソエラワグシウミウシ、ミノウミウシ亜目 s p

計22種 ()内数字は観察日



アカボシウミウシ(13)



ヒメキヌハダウミウシ(13)



ツヅレウミウシ(16)



ミナミヒヨウモンウミウシ(16)



キイロクシエラウミウシ(13)



ツメウミウシ(27)



ジョオウミノウミウシ(27)



ハクセンミノウミウシ(13)



ゴマフミノウミウシ(13)



イズミミノウミウシ(16)



ホソエラワグシウミウシ(28)



ミノウミウシ亜目 s p (13)

加太の磯だより 2019. 10月

2019. 10. 11 城ヶ崎 干潮11:01 潮位63cm

明日朝から大型で非常に強い(925HP)台風19号が近畿に一番近づくということで、海は大荒れである。潮が引かなく且つ波が潮間帯上部まで来るので、観察にならない。その中で小さな転石の裏から2mmオカダウミウシ、8mmコネコウミウシ、5mmヤツミノウミウシを確認する。



当日の磯



コネコウミウシ



オカダウミウシ

2019. 10. 13 城ヶ崎 干潮11:57 潮位62cm

台風一過、天気は恵まれたが風波などの影響を受け、まあまあの観察日であった。今日は大阪湾ウミウシ観察会の約20名の人達と合流しての観察である。

40mmアメフラシ、50mmクロヘリアメフラシ、35mmクロスジアメフラシ(多数)、14mmアカボシウミウシ、6mmヒメキヌハダウミウシ、3mmオカダウミウシ、25mmツヅレウミウシ、10mmミナミヒヨウモンウミウシ、35mmクロシタナシウミウシ、55mmミヤコウミウシ、40mmヒメリベ、30mmイロミノウミウシ、35mmヤマトミノウミウシ、9mmハクセンミノウミウシ、15mmチゴミノウミウシ、7mmゴマフミノウミウシ、6mmヤツミノウミウシ、10mmアカエラミノウミウシ、9mmツノバネミノウミウシ、15mmホゾエラワグシウミウシ
計20種



当日の磯



アメフラシ



クロヘリアメフラシ



クロスジアメフラシ



ヒメリベ



チゴミノウミウシ

2019. 10月 加太磯観察より

アメフラシ、クロヘリアメフラシ、ミドリアメフラシ、クロスジアメフラシ、ビワガタナメクジ、アカボシウミウシ、ヒメキヌハダウミウシ、オカダウミウシ、コネコウミウシ、エダウミウシ、ツヅレウミウシ、ミナミヒヨウモンウミウシ、クロシタナシウミシ、ミヤコウミウシ、ヒメリベ、マツカサウミウシ、イズミミノウミウシ、ヤマトミノウミウシ、ハクセンミノウミウシ、ニセハクセンミノウミウシ、チゴミノウミウシ、ゴマフミノウミウシ、ヤツミノウミウシ、アカエラミノウミウシ、ツノバネミノウミウシ、ホゾエラワグシウミウシ
計 26種 () 内は観察日



クロヘリアメフラシ(13)



ビワガタナメクジ(26)



アカボシウミウシ(26)



エダウミウシ(26)



ミナミヒヨウモンウミウシ(26)



ツヅレウミウシ(13)



マツカサウミウシ(26)



イズミミノウミウシ(26)



ニセハクセンミノウミウシ(27)



アカエラミノウミウシ(13)



ツノバネミノウミウシ(27)



ホゾエラワグシウミウシ(13)

加太の磯だより 2019. 11月

2019. 11. 23 城ヶ崎 干潮9:29 潮位65cm
穏やかな天気である。ただ最干潮の時間が早く、光の角度が充分あるかが気になっていた。しかし、磯に着くころにはその心配はなくなった。磯は未だしつとりと濡れてはいるが、僅かな海水のタイドプールは少し緑の海藻が成長してきている。釣り人は多が、磯は静かであった。

観察は55mmアメフラシ、25~35mmミドリアメフラシと卵塊、35mmビワガタナメクジ、8mmコネコウミウシ、2mmオカダウミウシ、25mmヤマトウミウシ、27mmクロシタナシウミウシ、5mmマツカサウミウシ、8mmミノウミウシ、25・30イズミミノウミウシ、24mmヤマトミノウミウシ、6mmゴマフミノウミウシ、3mmコマユミノウミウシ



当時の磯



ゴマフミノウミウシ



コマユミノウミウシ

2019. 11. 24 城ヶ崎 干潮10:19 潮位67cm
大阪湾ウミウシを観察する会のメンバー約30名と、採集・観察を行う。

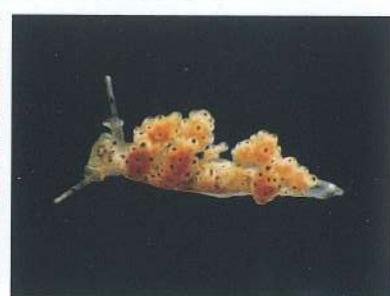
2mmアリモウミウシ、50mmアメフラシ、40mmクロスジアメフラシ、50mmビワガタナメクジ、コネコウミウシ、6mmアカボシウミウシ、4mmオカダウミウシ、25mmアオウミウシ、25mmミナミヒヨウモンウミウシ、35mmツヅレウミウシ、30mmクロシタナシウミウシ、28mmホンクロシタナシウミウシ、22mmマダラウミウシ、6・8mmマツカサウミウシ、6・7mmジョオウミノウミウシ、13mmツノバネミノウミウシ、20mmツツイシミノウミウシ、4・6mmハクセンミノウミウシ、20mmチゴミノウミウシ、5mmヤツミノウミウシ、15mmサラームミノウミウシ、4mmホリミノウミウシ属 s p 2



当時の磯



ホンクロシタナシウミウシ



マツカサウミウシ



ジョオウミノウミウシ



ツツイシミノウミウシ



ホリミノウミウシ属 s p 2

2019. 11月 加太磯観察より

アリモウミウシ、アメフラシ、ミドリアメフラシ、クロスジアメフラシ、ビワガタナメクジ、アカボシウミウシ、キヌハダウミウシ、オカダウミウシ、ヤマトウミウシ、アオウミウシ、ミナミヒヨウモンウミウシ、クロシタナシウミウシ、ホンクロシタナシウミウシ、マダラウミウシ、マツカサウミウシ、ジョオウミノウミウシ、ミノウミウシ、イズミミノウミウシ、ヤマトミノウミウシ、ツツイシミノウミウシ、ハクセンミノウミウシ、チゴミノウミウシ、ゴマフミノウミウシ、ヤツミノウミウシ、コマユミノウミウシ、サラームミノウミウシ、ホリミノウミウシ属 s p 2 計27種 () 内は観察日



アリモウミウシ (/24)



クロスジアメフラシ (/24)



ビワガタナメクジ (/23)



キヌハダウミウシ (/10)



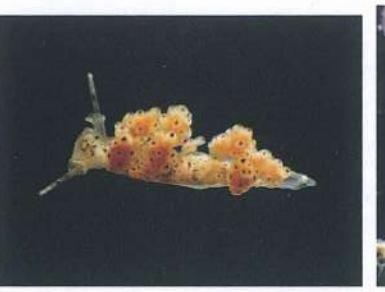
ヤマトウミウシ (/23)



アオウミウシ (/24)



マダラウミウシ (/24)



マツカサウミウシ (/24)



ヤマトミノウミウシ (/10)



チゴミノウミウシ (/24)



ヤツミノウミウシ (/24)



サラームミノウミウシ (/24)

加太の磯だより 2019. 12月

2019. 12. 11 城ヶ崎 干潮11:32 潮位86cm

12月に入り潮の引きが悪くなってきた。潮間帯上部のタイドプールから観察を始める。はじめにブドウガイが、続いてアリモウミウシ小さいが沢山見付かった。転石の裏から22mmエダウミウシ・13mmサラールミノウミウシ、転石の側面からフレリトゲアメフラシが見付かった。次いでその延長上の磯の観察に移り、やや大きな転石の裏からコネコウミウシ、アカボシウミウシ、ヒメキヌハダウミウシを、小さな転石の裏からハクセンミノウミウシ、マツカサウミウシ、少し大きくなったオカダウミウシ、水底の小さな石に体を埋めるようにアメフラシを観察した。また、元来砂泥地を好むフレリトゲアメフラシは何十年ぶりかでの磯にての観察であった。3mmアリモウミウシ、7mmブドウガイ、70mmアメフラシ、45mmフレリトゲアメフラシ、22mmエダウミウシ、7mmアカボシウミウシ、7mmヒメキヌハダウミウシ、6mmコネコウミウシ、3mmオカダウミウシ、3mmマツカサウミウシ、9mmハクセンミノウミウシ、17mmサラールミノウミウシ



当日の磯



フレリトゲアメフラシ



エダウミウシ

2019. 12. 13 城ヶ崎 干潮12:46 潮位87cm

穏やかな晴天である。風も弱く間にも穏やかな絶好の観察日である。ただ、潮の引きが弱いのが欠点であった。潮間帯上部のタイドプールがねらい目として、じっくり観察する。ブドウガイ、小さなアリモウミウシが多く見受けられる。潮に慣れるに従って、長靴の範囲の転石を観察した。面白いものが観察でき、今日の成果であった。

2mmアリモウミウシ(多数)、9mmブドウガイ(多数)、25mmアメフラシ、40mmクロスジアメフラシ、12mmアカボシウミウシ、3mmオカダウミウシ、48mmホンクロシタナシウミウシ、25mmツメウミウシ、13・4mmマツカサウミウシ、8mmハクセンミノウミウシ、12mmサラームミノウミウシ、25mmイズミミノウミウシ



当日の磯



クロスジアメフラシ



ホンクロシタナシウミウシ

2019. 12月 加太磯観察より

イズミミドリガイ、ブドウガイ、アリモウミウシ、アメフラシ、ミドリアメフラシ、フレリトゲアメフラシ、クロスジアメフラシ、エダウミウシ、アカボシウミウシ、キヌハダウミウシ、ヒメキヌハダウミウシ、コネコウミウシ、オカダウミウシ、ツヅレウミウシ、オオツヅレウミウシ、クロシタナシウミウシ、ホンクロシタナシウミウシ、マダラウミウシ、ツメウミウシ、マツカサウミウシ、ヤツミノウミウシ、ハクセンミノウミウシ、サラールミノウミウシ、イズミミノウミウシ 計 24種 ()内は観察日



イズミミドリガイ(1/28)



アリモウミウシ(1/23)



ミドリアメフラシ(1/28)



コネコウミウシ(1/11)



キヌハダウミウシ(1/28)



ヒメキヌハダウミウシ(1/11)



ツヅレウミウシ(1/28)



オオツヅレウミウシ(1/28)



マダラウミウシ(1/28)



ツメウミウシ(1/13)



マツカサウミウシ(1/13)



ヤツミノウミウシ(1/28)

2019年 和歌山市加太湾 ウミウシ類 年間月別出現時期

種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ブドウガイ	○	○	○	○	○	○	○	○				○
アカキセワタ	○			○	○	○						○
アメフラシ	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○
アマクサアメフラシ	○	○	○	○	○	○						
クロヘリアメフラシ	○	○	○	○	○					○		
ミドリアメフラシ	○	○	○							○	○	○
クロスジアメフラシ									○	○	○	○
ビワガタナメクジ										○	○	
フレリトゲアメフラシ												○
アズキウミウシ					○	○						
クロミドリガイ	○	○							○			
イズミミドリガイ												○
ヒラミルミドリガイ								○	○			
ミドリアマモウミウシ	○											
アリモウミウシ	○	○	○	○	○					○	○	
ウミフクロウ			○	○			○	○				
ネコジタウミウシ	○	○	○				○	○				
サガミコネコウミウシ	○	○			○	○						
コネコウミウシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒロウミウシ				○								
アカボシウミウシ	○	○	○	○	○				○	○	○	○
キヌハダモドキ						○						
キヌハダウミウシ		○	○	○	○					○	○	
ヒメキヌハダウミウシ				○				○	○			○
キンセンウミウシ							○					

種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ホリミノウミウシ属sp.2												○
イナバミノウミウシ	○	○	○					○				
ジョウオウミノウミウシ		○	○			○			○			
ユビワミノウミウシ		○										
ツノバネミノウミウシ	○	○				○	○	○	○			
フジエラミノウミウシ		○	○	○			○					
コマユミノウミウシ	○	○					○			○		
ツツイシミノウミウシ									○			
サラームミノウミウシ							○		○	○		
ハクセンミノウミウシ			○				○	○	○	○		
ニセハクセンミノウミウシ							○					
チゴミノウミウシ							○	○				
フタスジミノウミウシ	○											
セトミノウミウシ						○						
ゴマフミノウミウシ							○	○	○			
ヤツミノウミウシ					○	○	○		○	○	○	
サガミミノウミウシ				○								
アカエラミノウミウシ	○	○	○	○		○	○	○		○		
ミノウミウシ			○	○	○		○	○	○		○	
イズミミノウミウシ	○	○	○	○			○	○	○	○		
イロミノウミウシ	○	○										
ヤマトミノウミウシ			○	○				○				
ホソエラワグシウミウシ							○	○				
ミノウミウシ亜目sp.						○						

(筆者:和歌山市新生町8-13)

参考文献

- 生物学御研究所編 相模湾産後鰓類図鑑 岩波書店 1949
- 生物学御研究所編 相模湾産後鰓類図鑑 補遺 岩波書店 1955
- 高岡高等学校生物研究会編 富山湾産後鰓類図鑑 北隆館 1964
- 奥谷喬司編著 日本近海貝類図鑑 東海大学出版会 2000
- 中野理枝 日本のウミウシ 文一総合出版 2018
- 小野篤司 沖縄のウミウシ ラトルズ 2004
- 鈴木敬宇 ウミウシ・伊豆半島の海から TBSブリタニカ 2000
- 増田泰久 和歌山市加太湾産後鰓類 和歌山県生物同好会 2013
- 増田泰久 和歌山市加太湾産ウミウシ目録について
和歌山県 貝の会「がんがら」第14号 2019